

2025 年度 事業計画書

※2025 年度は 2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日の期間を指します。

はじめに

日本アムウェイ財団は設立以来、東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島の 3 県において、コミュニティハウス建設、地域活性支援プログラム、ボランティア支援を中心に活動してまいりました。2022 年 10 月には第 7 棟目となる「南三陸アムウェイハウス」が完成し、施設建設プロジェクトは一つの区切りを迎えました。

しかし、震災から 14 年が経過した今なお、長期にわたる復興や新型コロナの影響により、過疎化や交流人口の減少など、地域が抱える課題は依然として多く残されています。

当財団は引き続き、アムウェイハウスを拠点としたコミュニティ再生支援を継続するとともに、これまでの東北支援の経験を活かし、新たなプログラムの模索を始めています。

2022 年に開始した「Tomorrow HOPE プロジェクト」では、こどもの貧困と心身の健康を支援することを目的に、経済的理由により進学が困難なこどもたちに奨学金を提供し、2025 年 3 月末時点で 33 名の支援を実施しました。今後も、すべてのこどもが健全に成長できる社会の実現を目指して取り組んでまいります。

I. 東北復興支援

東日本大震災で失われた地域コミュニティの再生支援を目的に、以下の活動を継続します。

- コミュニティハウスのメンテナンスおよび、地元運営パートナーとの連携による地域活性化プログラムの支援
- 復興を担う次世代の育成を目的とした教育支援
- TOMODACHI プログラムへの協賛により、被災地のこどもたちがグローバルな視野を育むための体験機会を提供（第 3 期／3 年プログラム）
- 定期支援者への活動報告および継続支援の必要性に関する情報発信

II. 経済的支援を必要とするこどもとその家族への支援

日本の深刻な社会課題である「こどもの貧困」に対し、以下の施策により支援を行います。

- 経済的理由で大学・専門学校など高等教育を断念せざるを得ないこどもへの支援とし

て、返済義務のない奨学金を提供

- 年間 10 名程度（※応募状況により若干の増減あり）
- 支給内容：入学お祝い金 10 万円、月額 5 万円、卒業お祝い金 10 万円

III. 次のフラッグシッププログラムの開拓

新たな柱となる活動として、地域の持続可能な発展に資する農業支援プログラムの構想を進めます。

- 地方再生や雇用創出に寄与することを目的とし、2025 年度中にプログラムのコンセプト完成を目指す

IV. 財団運営

財団の持続的かつ適正な運営体制を確立し、長期的な支援の実現を目指します。

- 高い透明性を担保した会計・運営プロセスの維持
- 定期的な理事会・評議員会の開催によるガバナンスの確保